令和４年 11 月 28 日
国立大学法人千葉大学

第 13 回白衣式が開催されました

千葉大学医学部では令和４年 11 月 22 日（火）、ゐのはな記念講堂にて第 13 回白衣式が開催されました。

この白衣式は、医学生が入学して４年間にわたり積み重ねてきた学びを経て、これから病院での臨床実習で臨床実習生（Student Doctor）として患者さんと直に接するにあたり、医療者の一員としての自覚を新たにするとともに、本格的なトレーニング（臨床実習）を開始することを祝福するための大切な式典です。今回は共用試験（CBT、臨床実習前 OSCE）を無事に突破した学生総勢 127 名が参加しました。

学生へのメッセージを述べる松原医学部長

式典では、松原久裕医学部長、横手幸太郎医学部附属病院長、伊藤彰一学部学務委員長、吉原俊雄ゐのはな同窓会長、野崎正医学部後援会理事、大澤國昭千葉白菊会会長から学生へのメッセージが送られた後、白衣授与が行われました。一人ずつ氏名を呼ばれ、ステージ上で自らの名前と千葉大学医学部のロゴマークが刺繍された白衣を着せ掛けられた学生らは、白衣の重みを感じながら気持ち新たに、今までお世話になった方々に一礼しました。

白衣授与の様子

続いて４年生を代表するプロジェクトリーダーから、自分たちが目指す医師像を表現した『誓いの言葉』が読み上げられました。４年次学年代表の中川誇子さんは、「白衣の袖を通す喜びを噛み締めながら、より一層の責任と自覚をもって真摯に実習に取り組んで参ります」という『感謝の言葉』を述べました。これまで学生たちを育ててくれた方々を代表し、千葉白菊会の大澤圀昭会長、医学部教員代表として松原医学部長に花束贈呈が行われ、白衣式は幕を閉じました。

誓いの言葉を述べる学生

会場の外では、医学部生と保護者の方々が集まり、記念撮影を行っていました。学生からは「４年間の座学を終えて、病院での実習を前に実感が湧いてきました。白衣に袖を通して、背筋が伸びる思いです。」という声や、「臨床実習に向けて、これまでの感謝の気持ちと今後の意気込みを込めて、昨夜は両親に長いメールを送りました。」といったエピソードが語られました。

白衣はゐのはな同窓会から、
ワッペンは後援会から贈呈されました

学生たちは、コロナ禍で制約を受けながらの学生生活となりましたが、医師というひとつの目標に向かって一人一人が努力を積み重ね、この場に立つことができました。その裏には、教職員やご家族、献体となって自らを導いてくれた先生方やその理念にご賛同いただいたご遺族の方々など、多くの方々のご協力の上に成り立っています。

今回、白衣を受け取った 127 名の学生にとって、実りのある臨床実習となるよう、医学部教職員一同、応援していきたいと思います。